

お薬を上手に飲ませる・使うために 知っておいてほしいこと

- お薬を上手に飲めたときはほめてあげましょう。ほめてもらうと子供はうれしくなり、次も嫌がらずにお薬を飲むようになることがあります。また、お薬を飲めないとつい叱ってしまいがちですが、叱られたことでそれが嫌な思い出となってしまう、お薬が嫌いになってしまうことがありますので気を付けましょう。
- お子さまにお薬を使う理由を話してみましょう。理由を理解することで、お薬をきちんと使えるようになることがあります。また、お薬を使って症状がよくなったら、「お薬を使ったからよくなったんだよ」と伝えておくことも効果的です。
- お薬によっては、剤形（粉薬・シロップ薬・錠剤など）を選ぶことができるものもあります。お子さまが好む剤形がある場合は、あらかじめ医師に伝えておきましょう。
- お薬を飲んでアレルギー反応や副作用が現れるなど、からだに合わないお薬があった場合や、食べ物アレルギーがある場合は、そのお薬や食べ物の名前をおくすり手帳に記入しておき、受診時に医師に見せましょう。
- この冊子でご紹介する方法によってお薬を使うことに慣れてきましたら、飲み薬は水で飲むなど、少しずつ大人と同じような使い方ができるようにしていきましょう。



お薬をいつ飲ませたらよいか

～新生児、乳児の場合～

1日3回のお薬は、おおよそ朝・昼・夕の5～6時間間隔で、授乳時などに合わせて飲ませます。

～幼児の場合～

1日2回のお薬は、朝と夕（例えば朝7時頃、夜7時頃）、1日3回のお薬は起きている時間を3等分して（例えば朝8時頃、昼2時頃、夜8時頃）飲ませます。保育園や幼稚園などの事情により昼飲めない場合には、行く前と帰ってからと寝る前などのように3回飲ませるといった方法もあります。なお、保育園の帰りが遅いなどで時間が合わない場合は、1日2回飲ませればよいお薬もありますので医師に相談してみてください。



授乳後や食後だと、おなかがいっぱいでお薬を飲めなかったり食べ物と一緒に吐いたりすることがあります。子供用のお薬は空腹時に飲んでも副作用や効果に影響があるようなお薬は少ないため、授乳前や食前に飲ませるといった方法もあります。食事がとれなくても、お薬は飲ませなくてはなりません。また、お薬を飲ませる時間に寝ている場合は、時間がきたからといって無理に起こさず、起きたときに飲ませ、そのあとは5～6時間あけて飲ませます。



※特に抗生剤は、全量を内服する必要があります。多少時間がずれても、全部飲み切るようにしましょう。

引用 <https://www.dou-kouseiren.com/byouin/asahikawa/about/vt1bv7000000k21d-att/vt1bv7000000k242.pdf>